月刊フットマーク

2025年10月31日（金）第83号

月刊フットマークは東京都墨田区にある水泳・介護・健康インナーメーカー「フットマーク」が月１回発行するニュースレターです。すべてのお客様へ向けて楽しく役に立つ情報を掲載した紙面づくりを心がけています。

展示会に出展しました

”誰かの困った”に寄り添うものづくり。

80年の歩みをこれからも。「介護」の商標を登録して41年目。

今年も健康快互事業部が、国際福祉機器展（H.C.R2025）に出展しました。長年大切にしてきた「1/1（いちぶんのいち）の視点のものづくり」を基に、介護される人と介護する人が双方快く過ごせる環境を目指した新商品を多数出展しました。

とくに好評だった商品はこちら！

長持ちする入浴介護エプロン

優れた耐久性でコストを削減します。軽量で体への負担が少なく、着脱が簡単なため、仕事効率が向上します。

Voice

エプロンの軽さ・着脱の簡単さなどよく考えられていますね。入浴の日は１日中着用すると肩がこるし、腰ひもがあると夏場そのひもの位置に汗がたまるので、ひもが無い商品を探していました。実際に使ってみたいです。

12ポケットリュック

ポケットが多いので整理しやすく、無駄な動きが減り、タイムパフォーマンスを最大化できるリュックです。

Voice

訪問介護の仕事をしていますが、リュック自体の間口が大きく荷物の出し入れが簡単そう。仕事柄荷物が多いのでポケットが多いのはうれしいです。自分なりに使いやすい場所に収納して使ってみたいです。

レイニーデライトコート

車いす用のレインウェア。雨の日のおでかけをもっとワクワクしたものに。明るいデザインで気分も華やぎます。

Voice

去年のHCRから発売されるのを待っていました。生地のさわり心地が気に入っています。色々な機能が付いていて使いやすそう。早く届くのが楽しみです。

FOOTMARKな人々 58人目

ミスドの情報ならお任せください

入社年	2023年
部門	学校教育事業部
出身地	埼玉県
趣味	野球・筋トレ・スポーツ観戦
私の健康法	昼寝・毎朝晩のストレッチ

わたしの好きなミスドベスト3

1.ゴールデンチョコレート

甘すぎないふんわりしたチョコレートドーナツに、コーティングされているチョコの触感がたまらないです。絶対に外せない断トツで好きなドーナツです。

2.カスタードクリーム

口いっぱいにひろがるカスタードクリームがくせになるドーナツです。疲れたときにはこれが一番効きます。生クリームよりもカスタード派です。

3. ホット・セイボリーパイ BBQフランクフルト

サクサクのパイとジューシーなソーセージが甘さを吹き飛ばす美味さです。単体でもおいしいですが、ドーナツとの相乗効果は計り知れません。

私のおすすめ商品

FOOTMARK BASEWEAR

体の構造に適したサポートができるとても理にかなった商品だと思います。身体を引き締めたい方、慢性疲労にお悩みの方はぜひ試してほしいです。

すみだめぐり

旧安田庭園（きゅうやすだていえん）

旧安田庭園はJR両国駅（西口）から徒歩５分ほどに位置する緑豊かな庭園です。近くには「刀剣博物館」や「国技館」があり、両国らしさを感じられる一帯となっています。1923年９月１日の関東大震災により、壊滅的な被害を受けましたが、残った地割り石組みを基にして復元工事を行い、旧安田邸跡地は寄付者の名を冠して「旧安田庭園」と名付けられました。庭園からはスカリーツリーも。日々の疲れを癒しに足を運んでみては。

住所：東京都墨田区横網１丁目１２-１
TEL：
開館時間・9:00～19:30（４月～９月）
9:00～18:00（10月～３月）
入場料：無料

詳しい情報はこちら

大人の社会科見学 vol.2

NTTドコモ歴史展示スクエア

子どもの頃、わくわくしながら社会科見学に出かけた記憶はありませんか？
見慣れたものの裏側や、知らなかった世界にちょっと触れてみる。
そんな体験が、ふとした気づきや、眠っていた好奇心を呼び起こしてくれるかもしれません。

ケータイがつなぐ、“懐かしさ”と“進化の軌跡”

いまや、現代人の必需品と言っても過言ではない「携帯電話」。その歴史を知ることができる施設が東京両国にあります。「NTTドコモ歴史展示スクエア」では、年代ごとに通信技術の進化が分かりやすく展示されています。かつて自分が使っていた携帯電話を見つけると、なんだか懐かしい気持ちがよみがえってきます。

1987年に初めて登場した携帯電話は高価で、当時の普及率はわずか3%。所持者は、高所得者や仕事上必要な人に限られたものでした。また個人購入ではなく、レンタル品としての扱いのみでした。しかし1994年の「端末お買い上げ制度」をきっかけに、携帯電話は手に入れやすくなり、普及率は一気に上昇しました。

お話をうかがった館長の兼平泰之さんは、あの「ポケベル」の開発者。展示の解説では、長年培われた商品開発の経験や、お客様の声を大切にしてきたお話を聞くことができます。他社にはなかった「♡」マークの秘密や、バイブレーション機能が生まれたワケなど、当時の開発裏話も必聴です。

施設内は自由に見学できますが、希望すれば館長の解説を受けることも可能です。

日々お世話になっている携帯電話を振り返る一日にしてみては、いかがでしょうか。

おすすめポイント

1. 携帯電話などの歴史を学べる
2. 商品開発のキーマン兼平館長のお話が聞ける
3. 「ショルダーホン」（1985年）をかついで記念撮影ができる

館長の兼平さんの商品開発についてのお話は本当に勉強になりました

展示商品を一部ご紹介

重さが約 2.5kg あるショルダーホン

初期のポケットベル

「NTTドコモ歴史展示スクエア」

住所：東京都墨田区横網1-9-2
TEL：03-6658-3535
開館時間：午前10時～午後5時
休 館 日：日曜・月曜、祝祭日、年末年始
※入場無料
※予約不要。10名以上は事前お問合せ必須

フットマークできごとファイル

フットマークとカンボジア工場

■なぜカンボジア？

フットマークは 2012 年にカンボジアに自社工場を開設しました。それまで中国に合弁工場を構えていましたが、中国での人件費高騰を受け、チャイナプラスワンの経営方針に基づき、東南アジアへの進出を検討していました。

複数の候補先の中からカンボジアに選んだ理由は、立地条件、電力供給、人材確保、人件費など総合的に検討した結果です。何より、カンボジア人の優しくて純朴で人懐っこい人柄が、最終的な決め手となりました。

■カンボジアでもフットマーク流

カンボジア工場で大切にしている考え方は「One For All,All For One（一人はみんなのために、みんなは一人のために）」です。

これは一人ひとりが、自身の役割を理解し、主体的に行動することを意味しています。フットマーク本社でも大事にしている「人が真ん中にいる経営」を、カンボジアでも実践したいという池田 CEO の思いから生まれた理念です。

■カンボジア工場の今とこれから

創設から 13 年経て、現在は従業員約 130 名を超える工場に成長しました。生産品はハチマキ、エプロン、体操帽子・水着、ラッシュガード、スポーツインナーなどで、高度な技術を要する商品の生産も手がけています。また、ナショナルブランドの世界基準や品質管理基準にも合格するほどの発展を遂げています。

池田 CEO は、「人と人が関わり合いながら仕事をしているため、課題や問題は少なからずあります。しかし破滅に向かうのではなく、真摯に話し合い、協力して生産活動に取り組んでいます」と語ります。

特に自慢なのは、10 年以上勤務する社員が 40 名以上いること。一年間の定着率が 50% 以下といわれるカンボジアでは異例の高さです。脈々と受け継がれてきた技術やノウハウは、たしかな工場の成長と商品づくりを支えています。今後は、日本だけでなく東南アジアや世界を視野に入れた生産体制の拡大を目指し、チーム一丸となり、日々の生産活動に邁進しています。

池田 CEO の こぼれ話

赴任当時はまだプノンペンには日本料理屋がほとんどなく、毎日クメール料理の鳥粥ばかりでした。初めて日本のラーメン屋さんができたときは、感激で涙がでるような状況でした。街では野良牛が闊歩して道路脇にあるゴミ箱をあさっている。大雨が降ってホテルの前の道路が冠水。その中を子どもたちがプールのように泳いでいる。日本では考えられないカルチャーショックの連続でしたが、いまはすっかりカンボジアの生活に溶け込んでいます。

編集後記

4月に引き続き万博に参戦してきました。ご存じのとおり、夏休み以降は一気に人気が爆発し、連日20万人超えの来場者数。いま思えばゆったりと過ごせた前回「ビール飲んだ万博」だけの思い出で終わらせてしまったのは少々悔やまれますが（一応いくつかパビリオンは入りました）今回はしっかり情報収集して臨みました。知識や印象の濃淡はありますが、様々な国の文化の一端を知れたことは、本当に貴重な体験でした。大屋根リングは本当に圧巻で、そこから見た景色は、これからも心に残り続ける特別な思い出になりそうです。（吉河）

フットマーク株式会社
東京都墨田区緑 2-7-12
広報部
webmaster@footmark.co.jp